

真性赤血球増加症を示した 黒毛和種1症例

(株)益田大動物診療所

原知也、土屋萌、富岡晃輝、加藤圭介
山本哲也、足立全、岸本昌也、加藤大介

はじめに

多血症

相対的多血症; 脱水等による血漿量の減少

一過性多血症; 脾臓の収縮

絶対的多血症; 赤血球産生増加



はじめに

絶対的多血症

一次性

真性赤血球増加症、家族性赤血球増加症

二次性

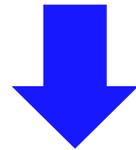
循環器疾患等に起因する低酸素症

腎疾患等に起因するエリスロポエチン産生異常



はじめに

真性赤血球増加症



骨髄増殖により、末梢血における
赤血球数(以下RBC)
ヘマトクリット値(以下Ht)
ヘモグロビン濃度(以下HGB)の増加
を示す疾患



症例

- ・黒毛和種、雌、初診時15ヶ月齢
- ・県内市場にて10ヶ月齢で購入
- ・県内肥育農家にて飼育



症例

T38.8°C、褐色泥状下痢、**可視粘膜充血**
左臍部pinning test陽性

TP (g/dL)	AST (U/L)	BUN (mg/dL)	Ca (mg/dL)	IP (mg/dL)	ALB (g/dL)
>12.0	>1083	19	5.0	7.7	>6.0

WBC (10 ² /μL)	RBC (10 ⁴ /μL)	HGB (g/dL)	HCT (%)	PLT (10 ⁴ /μL)
125	>1500	22.9	73.0	106



治療及び検査

第四胃左方変位整復手術



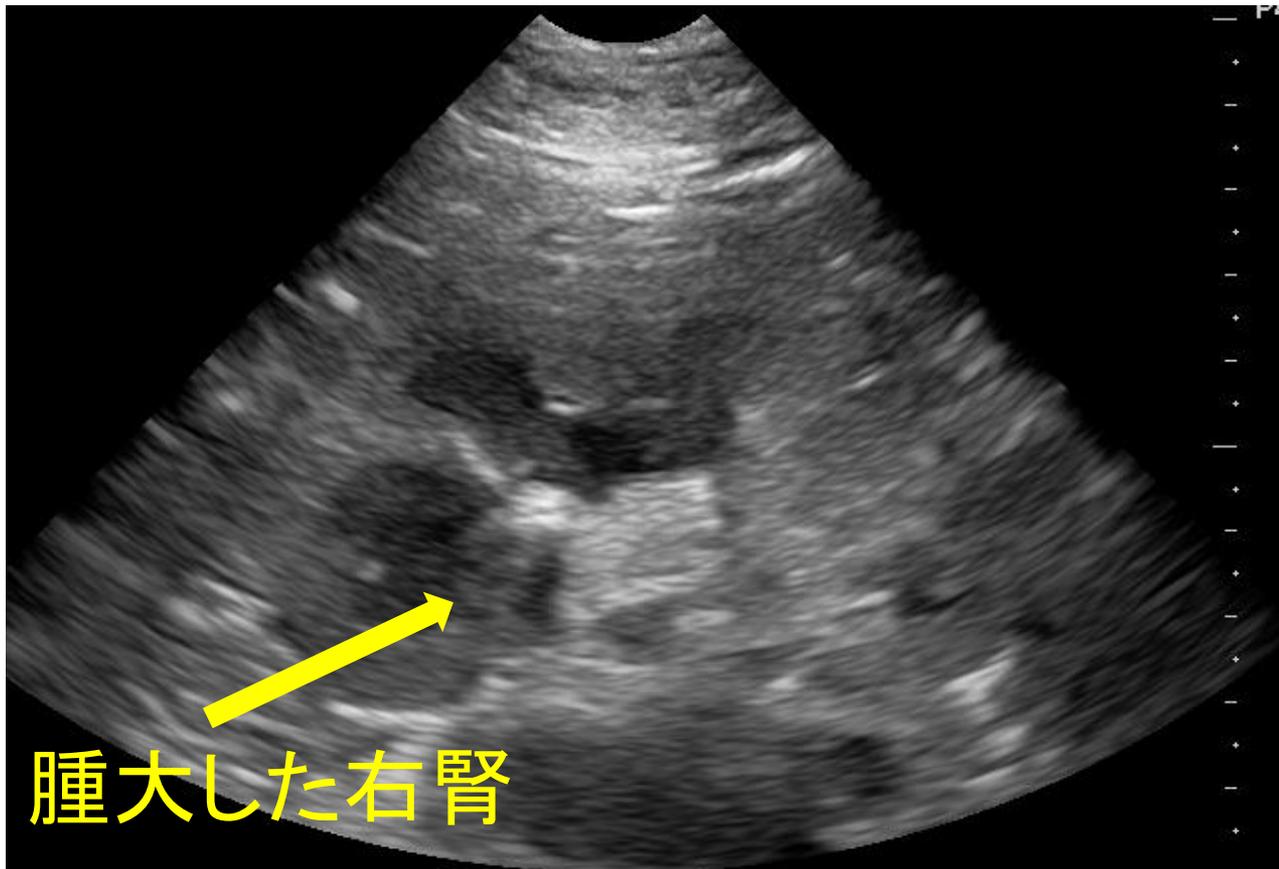
多血症原因解明

- ・腎臓超音波検査
- ・腎生検
- ・血中エリスロポエチン濃度測定
- ・骨髓検査

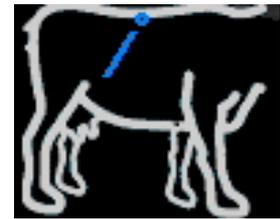


腎臓超音波検査

右腎(経皮的検査)



腫大した右腎



腎生検

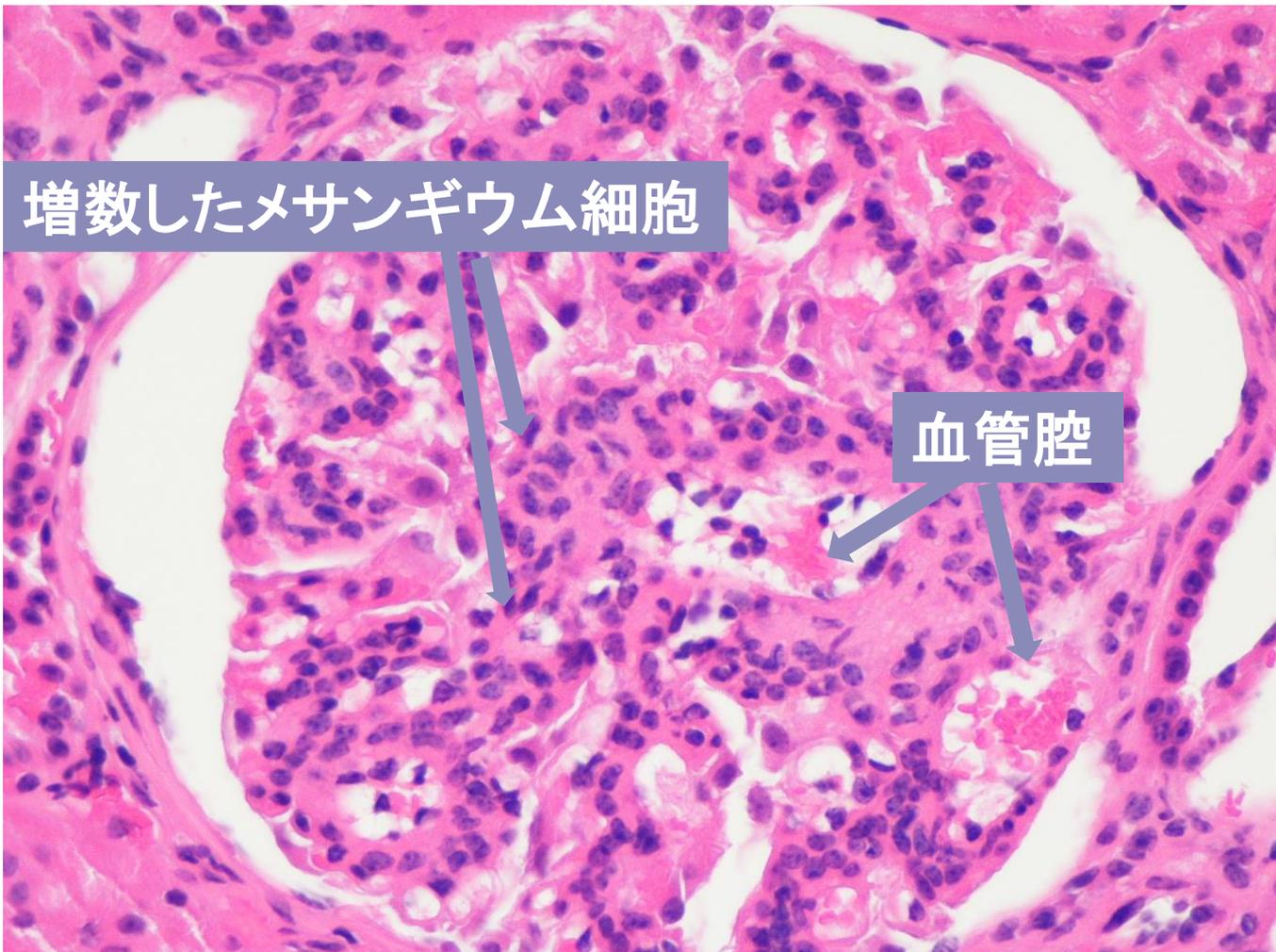


超音波ガイド下で右腎生検

(株)益田大動物診療所



腎生検



増数したメサンギウム細胞

血管腔

腫瘍細胞は
認められな
かった



血中エリスロポエチン濃度測定・骨髄検査

血中エリスロポエチン濃度0.6mIU/mL



右側第11肋骨より
骨髄穿刺

M:E比 0.37

(株)益田大動物診療所



出荷時血液検査

発育不良を呈し21ヶ月齢にて廃用出荷

TP (g/dL)	AST (U/L)	BUN (mg/dL)	GGT (U/L)	Cre (μ mol/L)	ALB (g/dL)
>12.0	>1083	21	95	2.8	>6.0

WBC ($10^2/\mu$ L)	RBC ($10^4/\mu$ L)	HGB (g/dL)	HCT (%)	PLT ($10^4/\mu$ L)
137	>1500	26.5	83.3	132



考察

超音波検査にて人頭大に腫大した腎臓を確認



腎生検及び血中エリスロポエチン低値より
二次性絶対的多血症の否定



骨髄穿刺にて真性赤血球増加症と診断



考察

- ・真性赤血球増加症は牛での報告は少ない
- ・原因としてヒトではJAK2遺伝子変異が報告されている
- ・多血症、特に絶対的多血症の分類は多様であるが、各種検査を行うことによって真性赤血球増加症と診断できた

